



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

## 試 験 報 告 書

第 506060418-001号  
2006年(平成18年)07月21日

依 頼 者

検 体 本報告書中

表 題 脱臭効果及びガス除去効果試験

2006年(平成18年)06月14日当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号  
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番

## 脱臭効果及びガス除去効果試験

### 1 依頼者

BlueShell有限公司

### 2 検 体

- 1) 消臭剤 水タイプ
- 2) 消臭剤 エタノールタイプ

なお、依頼者から対照品として「消臭剤 Pタイプ(対照品)」の提供を受けた。

### 3 試験概要

検体及び対照品についてアンモニア及び硫化水素の脱臭効果並びにホルムアルデヒドのガス除去効果をガス検知管により試験した。

### 4 試験結果

試験結果を表-1～3及び図-1～3に示した。

表-1 アンモニアの試験結果

(単位：ppm)

試料	経過時間				
	10 min	30 min	1 h	3 h	6 h
検体1)	240	120	90	70	70
検体2)	250	110	80	70	70
対照品	12	<10	—	—	—
空試験	500	500	480	440	420

初期ガス濃度：約500 ppm

<10：検出限界(10 ppm)未満

—：測定せず

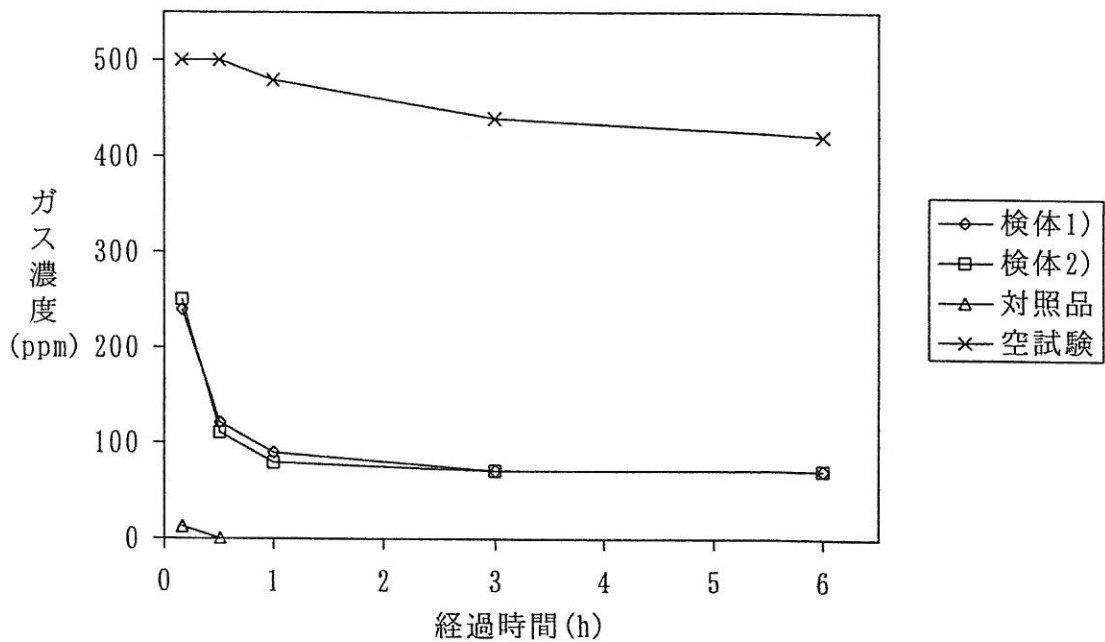


図-1 アンモニアの試験結果

表-2 硫化水素の試験結果

(単位：ppm)

試料	経過時間				
	10 min	1 h	3 h	6 h	24 h
検体1)	43	43	40	37	32
検体2)	45	39	33	30	20
対照品	50	50	50	50	49
空試験	51	50	50	50	50

初期ガス濃度：約50 ppm

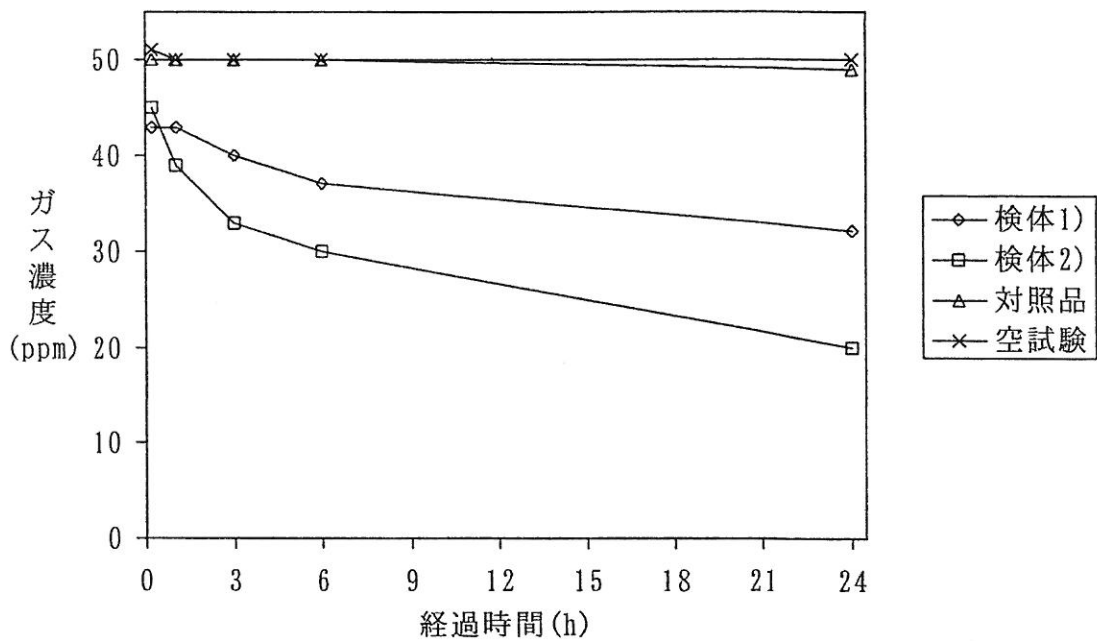


図-2 硫化水素の試験結果

表-3 ホルムアルデヒドの試験結果

(単位 : ppm)

試料	経過時間		
	10 min	30 min	60 min
検体1)	3	2	<1
検体2)	3	<1	—
対照品	4	2	<1
空試験	19	19	19

初期ガス濃度 : 約20 ppm

<1 : 検出限界(1 ppm)未満

— : 測定せず

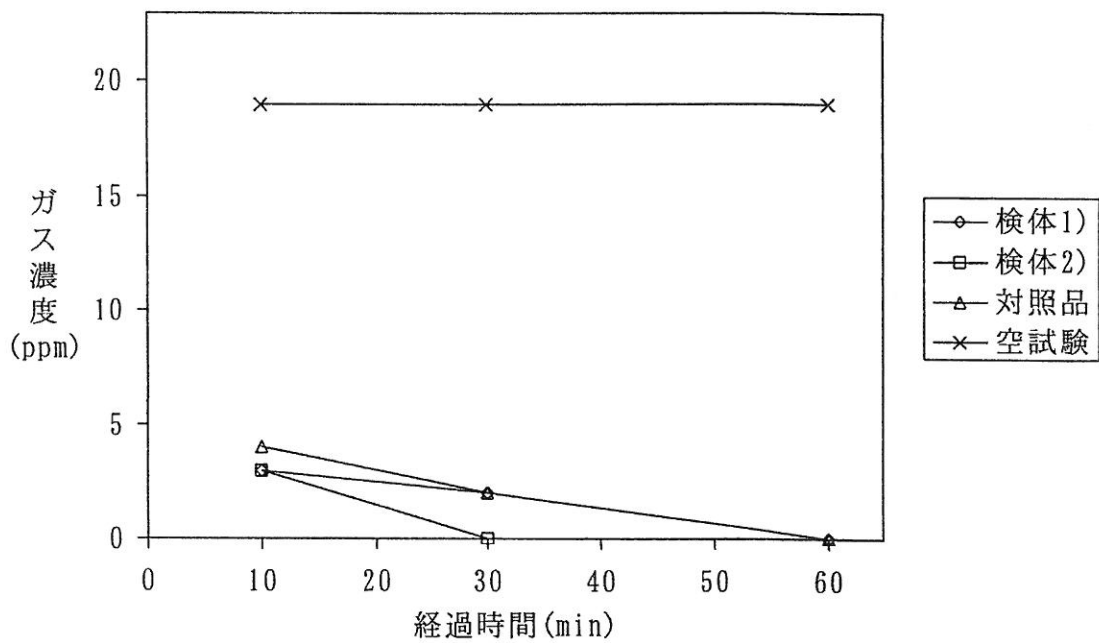


図-3 ホルムアルデヒドの試験結果

## 5 試験方法

### 1) 試薬及び器具

におい袋 (25 cm×40 cm) [有限会社 ミヤコビニル加工所]

アンモニア水 (28 %, 特級) [小宗化学薬品株式会社]

硫化水素：硫化鉄に希硫酸を加えて発生させたガスを用いた。

ホルムアルデヒド (特級) [小宗化学薬品株式会社]

ガス検知管 [株式会社 ガステック]

### 2) 操作

検体及び対照品をそれぞれにおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気3 Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。これを静置し、経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管で測定した。また、検体及び対照品を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-4に示した。

表-4 試験条件

検体使用量	アンモニア及び硫化水素 検 体：10 mL 対照品：10 mL ホルムアルデヒド 検 体：5 mL 対照品：5 mL
試験対象ガス (初期ガス濃度)	アンモニア (約500 ppm) 硫化水素 (約50 ppm) ホルムアルデヒド (約20 ppm)
温度条件	室温
測定時間	アンモニア 10及び30分並びに1, 3及び6時間 硫化水素 10分並びに1, 3, 6及び24時間 ホルムアルデヒド 10, 30及び60分

以 上